

ESGファイナンス・アワード・ジャパン
環境サステナブル企業部門 オンラインイベント

環境サステナブル企業部門の ご紹介

ESGファイナンス・アワード・ジャパン 環境サステナブル企業部門 事務局
三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社
2021年9月3日

環境サステナブル企業とは／表彰対象



- 環境サステナブル企業部門は「ESGファイナンス・アワード・ジャパン」の一部門です
- 投資家の視点から、「環境関連の重要な機会とリスク」を「企業価値」向上に向け経営戦略に取り込み、企業価値の向上にもつなげつつ、環境への正の効果を生み出している企業を「環境サステナブル企業」として表彰しています
- 「環境サステナブル企業部門」は、上場企業を表彰対象とします（国内外不問）
- 審査対象は、日本語で作成された投資家向け環境報告とします
 - 投資家向け環境報告には、統合報告、統合報告と一体的に開示媒体として活用されている環境データブックやサステナビリティ報告書なども含まれます。

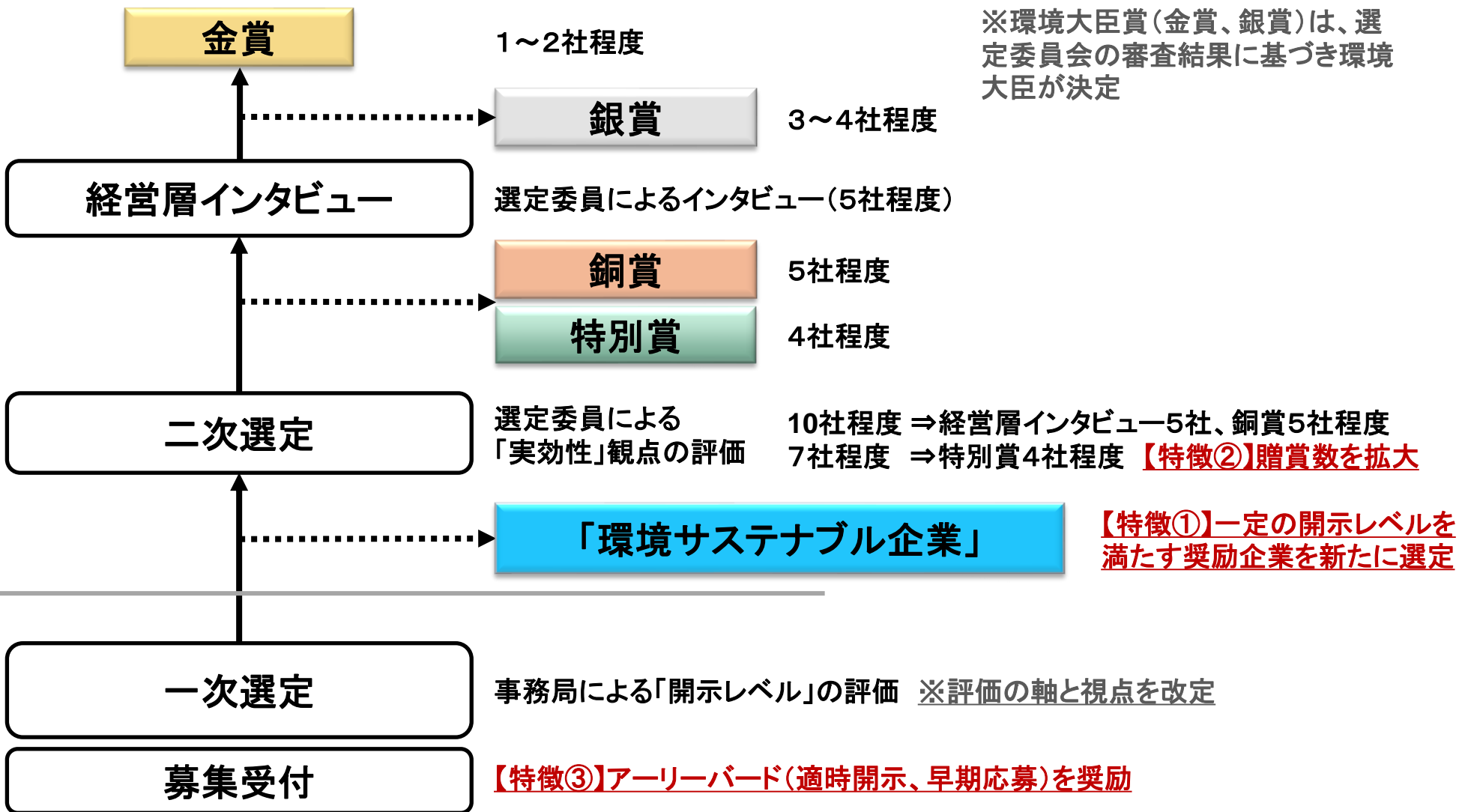
賞の種別	主な審査内容	一次選定候補	贈賞予定
金賞	<ul style="list-style-type: none"> ■ 優れた環境情報の開示 ■ 取組みの実効性を納得させるガバナンスやPDCA ■ 業種特性に照らした重要環境課題の重大さ、課題解決への期待効果、企業価値への影響、他の重要な環境・社会への著しい悪影響への対処 ■ 総合的に「環境サステナブル企業」として優れている度合い 	10社程度	1社程度
銀賞			4社程度
銅賞			5社程度
特別賞	<ul style="list-style-type: none"> ■ 企業規模、環境課題別／業種特性等 ■ 特筆すべき取組みの内容 	7社程度	4社程度

選定委員会

選定委員会は有識者・投資家等で構成されます

＜委員長＞	
北川 哲雄	青山学院大学 名誉教授 東京都立大学 特任教授
＜委員＞ (五十音順)	
近江 静子	JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社 インベストメント・スチュワードシップ統括責任者 エグゼクティブディレクター
櫻本 恵	アセットマネジメントOne株式会社 運用本部 責任投資グループ エグゼクティブESGアナリスト
竹ヶ原 啓介	株式会社日本政策投資銀行 設備投資研究所 エグゼクティブフェロー／副所長 兼 金融経済研究センター長
林 寿和	ニッセイアセットマネジメント株式会社 ESG推進部 チーフ・アナリスト
兵庫 真一郎	三菱UFJ信託銀行株式会社 資産運用部 チーフアナリスト兼チーフファンドマネジャー
松原 稔	りそなアセットマネジメント株式会社 執行役員 責任投資部長

今年度の賞体系・選定プロセス



今年度の特徴①

■ 「環境サステナブル企業」の選定

- 一定の開示レベルを満たしており、大臣賞等の受賞に向けて、いっそうの環境情報開示の充実が奨励される企業です
- 「環境サステナブル企業」の称号とロゴマークをご利用いただけます

■ 一定の開示レベルとは？

- 評価軸の「1. リスク・事業機会・戦略」と「3. ガバナンス」に含まれる「評価の視点」のうち^(注1)、**過去2年間の応募企業の一次評価における平均得点率^(注2)が8割を超えている項目**（次ページ参照）

(注1) 平均得点率とは、1点以上を獲得した企業数／応募企業総数(%)の2年間平均。

(注2) 評価軸の「2. KPI」は、企業のマテリアリティの特定状況によって得点率が左右されるため、選定基準から除外。「4. 加点要素」は、その位置づけ・性質自体が追加的な評価であり一定水準を求めるものではないため、除外。



※ロゴマークは検討中です(禁複写転載)

環境サステナブル企業の選定基準項目

評価軸	評価の視点	得点率 19年度	得点率 20年度	得点率 2年平均
1. リスク・事業機会・戦略				
(2) 環境関連リスク・機会の特定と影響可能性の把握	A 重要な環境課題に関連する事業リスク・機会が特定されている。	84.0%	93.9%	88.9%
(3) 重要な環境課題に関する中長期戦略	A 重要な環境課題に対応するための中長期戦略がある。	96.0%	93.8%	94.9%
	B 中長期戦略が、企業の存続基盤である環境・社会の持続可能性への寄与も意図している。	94.0%	91.7%	92.8%
	D 経営資源の割当や組織体制など、戦略の実行を確かなものとする措置がとられている。	82.0%	87.5%	84.9%
	E 重要な環境課題に対応するための戦略が、概論的・抽象的でなく、企業活動の各分野(R&D、設備投資、サプライチェーン管理など)における具体的取り組みに具体化されている。	88.0%	83.3%	85.7%
3. ガバナンス				
(1) 長期的な価値創造の観点での重要環境課題に関するガバナンス	J 環境課題に対する取り組みの進捗やKPIを監視する責任の所在が明確にされている。	86.0%	77.1%	81.5%
(2) 環境情報の開示	A 環境報告は、データ羅列でなく、経年比較や原単位を示すなど工夫が見られ、その情報の意味合い、重要性が理解できる開示になっている。	94.0%	97.9%	95.0%
	B 環境情報の第三者保証を受けている。	82.0%	87.5%	84.8%
	C 環境情報は、自社単体に加え、主要取引先、出資事業、グループ内企業関連企業などを網羅して提供されている。	90.0%	95.8%	92.9%
(3) 環境課題に関する投資家との対話	A 投資家を含むステークホルダーとの建設的な対話についての方針が開示されている。	74.0%	87.5%	80.8%
(4) 環境関連リスク・機会の管理プロセス	A 環境関連リスク・機会を管理・モニタリングする体制(責任、役割)	80.0%	93.8%	85.9%
	F 国際的に認められた環境認証の取得や基準への準拠、イニシアチブ参加(ISO14001の取得など)	90.0%	95.8%	92.9%

今年度の特徴②

■ 特別賞の贈賞数の拡大

- 特別賞では、キラリと光る固有の取組みを行っている企業を評価します
- 様々な企業規模や業種の企業にも受賞のチャンスがあります
- 今年度はさらに多様な視点で選定し、4社程度に贈賞の予定です

■ 今年度注目する「特別賞」選定の視点(例)

- ✓ カーボンニュートラル実現への貢献、多量排出型産業におけるトランジション、他者の脱炭素化を後押しする(イネーブラー)技術
- ✓ 資源循環(サーキュラー・エコノミー)技術、世界的な汚染予防への貢献
- ✓ 生物多様性の保全と持続可能な利用への貢献、これらを後押しする技術
- ✓ 企業規模の観点から限られたリソースを、固有の特徴的な取組に戦略的に注力している

■ エントリー時には、貴社が特別賞に該当すると考える理由について、PR欄への記載を積極的に行ってください。

※今年度選定で注目するトピック等は例でありこれに限りません。全ての視点から1社ずつ選ばれるわけではなく、選定の結果、特別賞の該当企業がない場合があります。
※特別賞の選定はエントリーされた開示情報の内容とPR欄の記述を参考に選定されます(インタビューはありません)。

今年度の特徴③アーリーバード制

- タイムリーな環境情報開示を奨励するため、決算期から環境情報開示までの期間についても評価します
- 上場企業の決算期(月ごとの企業数)と、決算後の統合報告の発行タイミングに関する実態やウィズコロナの状況が継続していることもふまえ、決算期から6か月後以内に環境情報を記載した報告書等を公開している企業は、9月中ないし10月初頭までの早期応募が奨励されます

上場企業の決算期

決算期	東証1部	東証2部
1月	28	6
2月	118	27
3月	1480	326
4月	14	7
5月	48	6
6月	60	12
7月	17	4
8月	35	8
9月	70	14
10月	24	8
11月	27	9
12月	269	46

統合報告の発行タイミング

決算後	2019年 (n=509)	2020年 (n=575)
1か月後	2	0
2か月後	3	0
3か月後	26	26
4か月後	87	85
5か月後	119	83
6か月後	125	155
7か月後	81	118
8か月後	34	63
9か月後以降	32	45

(出所) 上場企業データ(2021/7/18閲覧)を三菱UFJリサーチ&コンサルティング集計

(出所) KPMGジャパン「日本企業の統合報告に関する調査2019」及び「日本企業の統合報告に関する調査2020」に基づき三菱UFJリサーチ&コンサルティング作成

審査基準

審査基準は「評価軸及び評価の視点(令和3年9月版)」をご覧ください

1. リスク・事業 機会・戦略	(1) 重要な環境課題分析結果とその方法 (2) 環境関連リスク・機会の特定と影響可能性の把握 (3) 重要な環境課題に関する中長期戦略
2. KPI	(1) 気候変動 (2) 水資源 (3) 生物多様性 (4) 資源循環 (5) 化学物質・汚染予防
3. ガバナンス	(1) 長期的価値創造の観点での重要環境課題に関するガバナンス (2) 環境情報の開示 (3) 投資家対話 (4) リスク機会管理プロセス
4. 加点要素	①SBT ②TCFD ③RE100 ④グリーンボンド等 ⑤第5次環境基本計画重点戦略の実現に貢献するプロアクティブな事業機会対応

- ✓ エントリー時には、募集要項とともに、「評価軸及び評価の視点(令和3年9月版)」を十分にご参照ください。(次ページに評価軸及び評価の視点とエントリーフォームのイメージを掲載)
- ✓ 評価項目に該当する情報が開示されていても、エントリー情報がない場合は、当該評価項目の開示について評価できない可能性がありますので、ご注意ください。

評価軸及び評価の視点(一部抜粋・サンプルイメージ)

評価軸		評価の視点	
1. リスク・事業機会・戦略			
(1)	重要な環境課題の分析結果とその方法	A	企業が環境課題を重要と認識している(重要な環境課題が特定されている)。
		B	特定された重要な環境課題を重要と特定する理由、及び特定に至るプロセスの両方を示している。
		C	重要な環境課題の特定にあたり、多様なステークホルダーの見解が収集・反映されている。
		D	重要な環境課題の特定にあたり、多様なステークホルダーへの働きかけ(ステークホルダー・エンゲージメント)がなされている。
	環境関連リスク・機会の特定と影響可能性の把握	A	重要な環境課題に関連する事業リスク・機会が特定されている。
		B	重要な環境課題に関連する事業リスク・機会は、主要製品や自社設備だけでなく、企業のビジネスモデル全体を考慮して特定されている。
		C	重要な環境課題に関連する事業リスク・機会が、企業のビジネスモデル上のどこで発生するかが特定されている(サプライチェーンやバリューチェーンの特定箇所や、特定の製品・サービス等)。
		D	重要な環境課題に関連する事業リスク・機会の財務的影響の大きさについての検討がなされている。
		E	重要な環境課題に関連する事業リスク・機会の実現の時間軸(時期)についての検討がなされている。
		F	重要な環境関連の事業リスク・機会について、現状と実績、今後の課題に関する経営陣の検討と分析が示されている。
		G	重要な環境課題に関する事業リスク・機会の特定及び影響や時間軸の分析が、企業のビジネスモデルに照らして説得力がある。
		H	重要な環境課題に対する事業リスク・機会の特定が、企業のビジネスモデルに照らして説得力がある。
(3)	重要な環境課題に関する中長期戦略	A	重要な環境課題に対応するための中長期戦略がある。
		B	中長期戦略が、企業の存続基盤である環境・社会の持続可能性への寄与も意図している。
		C	重要な環境課題に関連するリスク・機会への対応が、中核的な経営戦略に統合されている。
		D	経営資源の割当や組織体制など、戦略の実行を確かなものとして行われている。
		E	重要な環境課題に対応するための戦略的取組みに具体化されている。
		F	中長期戦略が、企業のビジネスモデルに照らして説得力がある。

評価軸		評価の視点		
2. KPI		(注)「2. KPI」の各環境課題は、事業者が重要課題と特定している課題を評価の対象とする。		
(1)	気候変動	A	企業のビジネスにとって気候変動が重要な環境課題であり、気候変動に関するKPIが設定されている。	
		B	気候変動に関する戦略(指針・コミットメント、コスト、気候関連の影響の特定(リスク・機会)、シナリオ分析、カーボンプライシング考慮等)、管理活動、バリューチェーンマネジメント等が示されている。	
		C	気候変動に関する戦略に基づき、算定方法/達成度評価が明確な野心的KPI目標が設定されている。(野心的KPI=中期計画の期間を超える長期目標であり、その目標からのバックキャストにより実現可能性の検証がなされたKPI)	
		D	2050年カーボンニュートラル実現のための戦略として、科学的根拠のある目標に基づいてGHG排出削減の長期目標達成の経路上にある中間目標が設定され、そのスコープは重要性に応じて適切な範囲をカバーしている。	
		E	KPIの実績が目標どおりに進捗している。進捗が遅延がある場合、遅延理由を踏まえ十分な進捗であると判断できる。	
	(2)	水資源	A	企業のビジネスにとって水資源が重要な環境課題であり、水資源に関するKPIが設定されている。
			B	水資源に関する戦略(指針・コミットメント、コスト、水資源関連の影響の特定(リスク・機会)等)、管理活動、バリューチェーンマネジメント等が示されている。
			C	水資源に関する戦略に基づき、算定方法/達成度評価が明確な野心的KPI目標が設定されている。(野心的KPI=中期計画の期間を超える長期目標であり、その目標からのバックキャストにより実現可能性の検証がなされたKPI)
			D	KPIの実績が目標どおりに進捗している。進捗が遅延がある場合、遅延理由を踏まえ十分な進捗であると判断できる。
			E	KPIの実績が目標どおりに進捗している。進捗が遅延がある場合、遅延理由を踏まえ十分な進捗であると判断できる。
	(3)	生物多様性	A	企業のビジネスにとって生物多様性が重要な環境課題であり、生物多様性に関するKPIが設定されている。
			B	生物多様性に関する戦略(指針・コミットメント、コスト、生物多様性関連の影響の特定(リスク・機会)等)、管理活動、バリューチェーンマネジメント等が示されている。
C			生物多様性に関する戦略に基づき、算定方法/達成度評価が明確な野心的KPI目標が設定されている。(野心的KPI=中期計画の期間を超える長期目標であり、その目標からのバックキャストにより実現可能性の検証がなされたKPI)	
D			野心的KPIの実績が目標どおりに進捗している。進捗が遅延がある場合、遅延理由を踏まえ十分な進捗であると判断できる。	
E			野心的KPIの実績が目標どおりに進捗している。進捗が遅延がある場合、遅延理由を踏まえ十分な進捗であると判断できる。	
(4)	資源循環	A	企業のビジネスにとって資源循環に関するKPIが設定されている。	
		B	資源循環に関する戦略(指針・コミットメント、コスト、資源循環関連の影響の特定(リスク・機会)等)、管理活動、バリューチェーンマネジメント等が示されている。	

※エントリー用ウェブサイト、募集要項、評価軸と評価の視点、エントリーフォーム(一覧表)等は、全て募集開始時に環境省報道発表でご案内します

エントリーフォーム(サンプルイメージ)

Q8.

評価項目別の情報開示箇所 1.(1) 重要な環境課題の分析結果とその方法

別紙「評価軸と評価の視点(令和3年9月版)」をご参照の上、評価軸「1.(1) 重要な環境課題の分析結果とその方法」及びその評価の視点(A~D)に関する情報開示箇所をご記入ください。

※ Q3.「報告書等の種類」で回答した情報開示媒体ごとに、該当する内容が記載されたページ番号またはURLをご記入ください。

* (複数選択)

1. 統合報告書・年次報告書(テキスト欄に該当ページ番号)

- 設問数を減らすため「評価軸」ごとに欄を設けています
- 「評価の視点」(A~Dなど)のレベルで該当ページを入力すると、漏れがありません
- 但し、関係性の低い内容は、評価されない可能性があります

Q9.

評価項目別の情報開示箇所 1.(2) 環境関連リスク・機会の特定と影響可能性の把握

別紙「評価軸と評価の視点(令和3年9月版)」をご参照の上、評価軸「1.(2) 環境関連リスク・機会の特定と影響可能性の把握」及びその評価の視点(A~G)に関する情報開示箇所をご記入ください。

※ Q3.「報告書等の種類」で回答した情報開示媒体ごとに、該当する内容が記載されたページ番号またはURLをご記入ください。

* (複数選択)

1. 統合報告書・年次報告書(テキスト欄に該当ページ番号をご記入ください)

審査結果のフィードバック

- 応募いただいたすべての企業に対し、1次審査結果のフィードバックを提供します
- 各賞の受賞企業には、選定委員会による講評(表彰理由)も付されます

2021年2月

第2回 ESG ファイナンス・アワード・ジャパン「環境サステナブル企業部門」
選考結果フィードバックシート

株式会社XYZ ご担当者様

この度は ESG ファイナンス・アワード・ジャパン「環境サステナブル企業部門」にご応募頂き誠にありがとうございました。以下に評価結果概要をお知らせいたします。
今後貴社の業務にお役立て頂くとともに、来年度、本アワードへのご応募の際の参考にして頂きますと幸いです。

【評価結果比較レーダーチャート】

● 貴社 ● 上位10社平均 ● 業界平均 ● 貴社前年

【評価結果の見方】

- ・ 評価結果比較に基づき、重要ス、1点満点を10点として作成しています。
- ・ 貴社：当上位10社業界平均貴社前年

なお、前年度審査では、エントリーフォームに記入されたページ・URL以外も幅広く記載内容を確認しましたが、今年度は、エントリーフォームに記入されたページ・URL以外は範囲を絞って行っています。

- ・ グループは、一次選考結果を以下の基準で6グループに分類したもので、応募企業全体での貴社の位置付けを示しています。
 - A 上位20% (うち、全体の上位10%に入る場合はA+)
 - B 中位60% (うち、全体の中間より下位の場合はB-)
 - C 下位20% (うち、全体の下位10%に入る場合はC-)

【応募企業概要】

東証17業種分類 (応募のあった業種のみ)	応募企業数	金・銀・銅賞企業数
食品	6	3
建設・資材	4	2
素材・化学	7	1
医薬品	4	
自動車・輸送機	1	
鉄鋼・非鉄	2	
その他	3	1
	8	2
	4	
	3	
	1	
	1	

【評価比較レーダーチャート】

- ・ 「リスク・事業機会・戦略」「KPI」「ガバナンス」「加点要素」の4つの評価軸と、これらの合計点の5項目について表示
- ・ 自社、一次選定上位10社(金銀銅賞受賞)平均、業界平均、自社過年度(該当する場合)の4つの得点率を表示

【評価結果コメント】

- ・ 応募企業全体における自社の相対的位置づけと一次審査の評価コメント
- ・ (受賞企業の場合、二次審査や経営層インタビューの結果も踏まえた委員の講評)

・ 応募企業全体の概要表

・ 相対的位置づけのグループ分けの方法に関する説明

スケジュール

募集期間：令和3年9月6日（月）～10月29日（金）

エントリー用ウェブサイトは、環境省報道発表でご案内します。
イベント参加企業には募集開始の報道発表のご案内を差し上げます。

- 上記専用ウェブサイトアクセスし、エントリーフォームに必要事項を記入して応募してください。
- 必要な場合は電子メールでの資料提出が可能です。
- やむを得ず紙媒体を提出する場合は、事前に事務局へご相談ください。

<その後の流れ>

環境大臣賞候補・特別賞選定のご連絡
経営層インタビューの実施
各賞の受賞企業等の発表
表彰式

令和3年12月下旬

令和4年1月中 ※環境大臣賞候補のみ。特別賞はインタビュー無

令和4年2月上旬

令和4年2月頃（予定）

【お問い合わせ】

ESGファイナンス・アワード・ジャパン(環境サステナブル企業部門)事務局:

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

政策研究事業本部 環境・エネルギーユニット 正垣、奥野

E-mail: esgf-award-esc@murc.jp

Tel: 03-6733-4957 (祝日を除く月～金の9:30-17:30)